

HTML5

JJ1SXA/池

Webサイト(ホームページ)を作るときに必ず書くことになるHTMLは、Webサイトのコンテンツ、つまり中身や構造を作るために使うマークアップ言語だが、この最近版として10年ほど前に登場したのがHTML5だが、2021年1月28日に廃止されましたとのこと。

現在、私のホームページは、一応240グループのホームページとして認識頂いているようですが、これを書いた頃は、パソコンの知識、プログラミングの知識などカケラも無いのに無謀にも挑戦した(今でも余り変わらないが)、他の色々のホームページのソースを参考にすることと、HTML辞典を読むことだけだから、そんなに立派なものができる訳は無い。

240のホームページのソースの冒頭は<doctype html public "-//w3c//dtd html 4.01 transitional//en-ja">となっている、これは、意味もわからず、他の大部分のホームページのソースがそうになっていたから、丸写しただけで意味など分かっていなかった。

ここに書いてある「w3c」はアメリカのハムのコールサインかな?と全くピンボケな話、全く阿呆だった、実際は、w3c規格の、html 4.01で記述しましたと書いているのだ、そんなことも知らずに、ホームページを作成しましたと、臆面も無く公開した、穴があったら入りたいの心境だ、さりとて今更作り変える気力はない。hi

そんな話はさておき、今回は、何故HTML5が廃止されることになったのかというのが本題です、HTMLの規格策定はW3Cでなく、WHATWGが作ることになりました、それに伴って、HTML5は廃止され、HTML Living Standardがこれからの主流になったという話です。

WHATWGは、2004年に「Apple」、「Mozilla」、「Opera」の3社によって設立されていて、読み方はワットウィージー、ワットウィグ、ワットダブリュージーなど3通りの読み方があるようです、ちなみに、W3Cの正式名称は「World Wide Web Consortium1」で、名前の通りWorld Wide Webの標準を策定している国際的な機関で、ティム・バーナーズ＝リーという初めてWebサイトを作った人が設立した組織です、このW3CがHTMLだけでなく、HTTPやCSS、DOMといったWebサイトに関わるものの仕様を決めています、つまり、「Webサイトとは何か」を決めている組織ということです。

HTML5は、WHATWGがW3Cに「HTMLの改善をしろ」と圧力を掛けて生まれたようです、HTML5ができてW3CとWHATWGは仲良くできるかなと思いきや、方向性の違いによって2012年にまた分裂します。

これによって、W3CのHTML5と「WHATWGのHTML」の2つがHTMLの標準として併存する時代がありましたが、2019年5月に停戦協定が結ばれ、「W3CとWHATWGが協力して、WHATWGの作ってきたHTML、HTML Living StandardをHTMLとDOMの唯一の標準にする」というものでした。

そして、2021年1月29日、WHATWGのサイト上にあるHTML Living Standard7 が正式に、W3C Recommendation(勧告)として発表され、同時に、W3Cが決めてきたHTMLの規格は全部廃止されることになったようです、これにより、当然HTML5も廃止になったということだ。